

ラクイラ裁判では何が争われたのか What was really accused in the L'Aquila trial

鈴木 真美^{1*}
Shinbi Suzuki^{1*}

¹ 日本放送協会

¹ Japan Broadcasting Cooperation

NHKでは、2012年8月18日(土)午後10時から、ドキュメンタリー WAVE「訴えられた科学者たち?イタリア地震予知の波紋?」を放送した。

2009年4月、イタリア中部の都市ラクイラでマグニチュード6.3の地震が発生、309人が死亡、2万棟を超える建物が崩壊したことを巡り、科学者と行政官が『過失致死』容疑で震災被害者に刑事告訴されたことを、ていねいに取材したドキュメンタリー番組である。ラクイラでは地震の数か月前から400回を超す群発地震が頻発し、人々の間で「大きな地震が来るのでは?」という不安が広がっていた。しかし、パニックを恐れる市は、行政官と科学者で構成される「災害対策委員会」を開催、事実上の『安全宣言』を出した。その6日後に本震が起こり、甚大な被害が発生した。市民たちは、市が『安全宣言』を出さなければ、危険を回避できたと、刑事告発に踏み切った。これに対し、科学者からは不確実な未来を予見し、罪に問われれば、科学者は何も発言できないと、反発が広がっている。番組では、災害対策委員会が安全宣言を出すまでの議論をもとに、災害の予知情報をどう伝えるべきか検証した。

この番組の制作責任者の1人として、裁判で何がほんとうに問われたのか、科学者の社会的責任とは何かについて詳論する。